

14・15世紀の宗教文学と一般信徒の信仰
: 写本文献の伝播と変容に基づく研究
Religious Writings and Lay Devotionalism
in Fourteenth- to Fifteenth-Century England: A Study through Manuscript Texts

田口 まゆみ (TAGUCHI Mayumi)

成果

論文名: 'The Choice and Arrangement of Texts in MS Pepys 2125, Magdalene College, Cambridge: A Tentative Narrative about its Material History'

掲載書名: Simon Horobin and Linne R. Mooney 編, *Literary and Learned: Texts in Transition in the Later Middle Ages, a festschrift dedicated to Toshiyuki Takamiya on his 70th Birthday* (York: York Medieval Press, 2014) <2014年刊行されます>

概要

14世紀末から15世紀末にかけて転写された52本の文献を収録するケンブリッジ、モードリン・カレッジ図書館、サミュエル・ピープス蔵書、写本2125は、典型的後期中世のコンピレーション写本であるとともに、非一般的なヴァージョンを収録するという点において特殊な写本でもある。本稿では、この写本が1世紀以上に渡って変容を続けた過程を詳細に検証し、写本の制作者、所有者、使用された場所、使用目的などを考察することにより当時の信仰形態の特徴の変化について仮説を立てた。

まず、本写本の歴史が5人の写字者 A~E による次の5段階を経ていることについて詳細に述べた。(1) 写字者 C、folios 40-145、紙製、14世紀末~15世紀前半、おそらく男性隠修士の個人的使用目的のために集められた、悔悛、救済、黙想、マリア・キリスト崇拜および信仰生活に関する基本的文献と贖罪付き祈りなど多数の文献から成る。使用者が自ら写本した可能性もある。(2) 写字者 A、folios 1-38、羊皮紙製、15世紀前半、男子修道院で制作され、使用されたと思われる。本来他の写本の一部であったものを、2本の長いテキストから成るこの部分のみ、上記(1)の紙製写本の上に乗せる形で製本されている。(3) 写字者 B、folio 39、紙製、15世紀半、写本(1)の第1番のテキストの第1葉目を修復したものである。(4) 写字者 D、folios 143-45 の白紙部分に書き加えられている。15世紀末。「キリストの受難に際する聖母の4つの嘆願」(フランス語からの翻訳)。(5) 写字者 E、遊紙(flyleaf)への加筆。15世紀末。

上記(1)が写本主要部分であり、(2)~(5)の部分が後に追加された。これらの文献が付け加えられた理由について考察し、また欠損している部分については、先行文献と関連付けながら、異端的内容を含んでいたことが削除の理由であるかどうかについて検証した。方法としては、収録文献の内容を詳細に調べ、これまで誤って伝えられてきた意見を訂正し、明らか

にされていなかった内容を補足しつつ、文献の内容面から考察するとともに、**material philology**、つまり写本の材料や製本の仕方、テキストの選択や並べ方などもテキスト解釈に組み込んでいく、近年の文献学の手法を導入し、写本(1)が現在の状態へと形を変えていった過程や背景、変化に伴う役割の変化について述べ、後期中世の信仰書録の多様性と、マリア信仰、キリスト崇拝を軸とする黙想による信仰形態が男子修道者の間においても継続的に主流であったことを論じた。